

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調査（平成30年度分）

団体名：与謝野町

プロジェクト名	一人ひとりが個性を活かし安心して働けるまちプロジェクト（産業・雇用）	実施期間	H30年度～H34年度	テーマ	地域産業の育成	新規・継続の区分	新規
地域における現状、課題及び住民ニーズ	<p>働く場はあるが、若者が都会から帰ってきたいと思える魅力的な仕事や、子どもを育て幸せな家庭を築くための基盤となる収入を得られる仕事が少ないと感じている。また、18歳～22歳の若者は進学するため都会に出て、そのまま住み、仕事をする事が多く、その結果、未来を担う若者の流出が続き、労働力人口の減少と担い手の高齢化に拍車がかかっている。</p> <p>また、わたしたちの地域経済と暮らしを支えてきた農業、織物業においても、生産量や生産額の減少とともに担い手の減少が続き、産業基盤が少しずつ小さくなってきている。そのような状況の中、町では与謝野町中小企業振興基本条例を制定し、中小企業などの責務や地域内経済循環を基本理念に掲げるとともに、与謝野町ひとしごと・まち創生総合戦略の策定、与謝野ブランド戦略の推進により地域資源を見つめ直し、地域を誇れる人づくり、仕事づくり、まちづくりを推進している。</p> <p>先人が培ってきた知恵や技と今後ますます進化する先端技術とを掛け合わせることで、あらゆる産業分野の生産性を向上させるとともに、自然循環農業に象徴される自然環境への負荷の小さな経済モデルの確立、さらには、与謝野町ならではの持続可能な経済循環システム・流通システムを構築することにより、「一人ひとりが個性を活かし安心して働けるまち」を目指す。</p>						
プロジェクトの目的及び概要	<p>これまで培われた農林業、商工業、織物業の基盤をもとに、「一人ひとりが個性を活かし安心して働けるまち」を目指し、各産業の振興を図るとともに、各産業が連携して新たな活路を見出し、活力が循環するまちづくりを進める。</p>						
	総事業費（千円）	17,524	本年度事業費（千円）	17,524	交付金額（千円）	8,217	
プロジェクトを構成する事業の平成30年度事業実績（出来高数値等）							
事業分類	事業名	事業種別	事業概要		主な実績（出来高数値等）		
市町村実施事業	産業施設整備事業	交付対象事業	わーくばる野田川整備事業		屋根の修繕 39,161人の利用人数		
		交付対象事業	産業創出交流センター管理運営事業		屋根の修繕 850人の利用人数		
	農業振興対策事業	交付対象事業	京の豆っこ肥料生産事業		京の豆っこ肥料生産 製造量287t		
		交付対象事業	農業団体活動支援事業		農事組合38組合への補助金		
		交付対象事業	リフレかやの里施設整備事業		リフレかやの里施設整備 加工機器、エアコン、ポンプ修繕		
与謝野ブランド戦略事業	関連事業	まちの魅力を発信するかへ新聞の発行		かへ新聞うちのまち3回の発行			
住民協働事業	中小企業振興事業	交付対象事業	中小企業振興による地域経済の活性化		創業支援、人材育成、新商品開発、販路開拓、新商品・新製品開発、アンテナショップ等のへの補助金30件		
	商工振興事業	交付対象事業	商工会による地域経済の活性化		商工会への補助金 1,558千円		
	企業立地推進事業	交付対象事業	企業誘致による地域活性化		町内2団体への助成		
	織物振興対策事業	交付対象事業	着物着付け教室の実施		参加人数325人		
	自然循環農業推進事業	関連事業	独自の肥料を生産し農産物の高付加価値化		有機肥料（豆っこ肥料）の改良、開発、販売促進を実施		
	特色ある農業推進事業	関連事業	IoT農業、ホップの生産		土壌診断支援、ホップ棚設置、交流体験事業の支援を実施		
	YOSANOシルクプロジェクト	交付対象事業	桑栽培からシルクの生産		桑畑の整備		
		関連事業	桑栽培からシルクの生産		地域おこし協力隊による桑栽培、養蚕などを実施		
	織機調整等支援・生産基盤支援事業	関連事業	機械設備整備の支援を行い織物業界の底上げをはかる		織物織機調整等支援事業補助金（実績件数176件）、織物業生産基盤支援事業費補助金（実績件数47件）		
	織物職人人材確保事業	関連事業	織物職人養成プログラムによる人材の確保をはかる		参加人数17人		
	テキスタイル産地化支援事業	関連事業	織機の広幅化等支援し洋装等新たな販路を開拓支援		町内織物事業者への補助 3件		
	丹後ちりめん創業300年事業	関連事業	物づくり産地という地域ブランドの向上を高める事業を行う		実行委員会負担金		
よさのみらい大学事業	関連事業	よさのみらい大学の実施		1コース2学部で全16回実施 601人の参加者			
住民が取り組む事業							
成果指標①	成果指標の目標数値	認定農業者数 H29：34人⇒H32：34人		成果指標の実績値（31年3月31日時点）	平成30年度 1人/年（累計36人）		
	成果指標の達成状況	◎	（左の理由）	高齢化により担い手数が減少する中で増となり目標数値を達成することができた。			
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）	-		（時期）	-
成果指標②	成果指標の目標数値	新規就農者・研修者（単年度） 3人 H29:44人⇒H32:53人		成果指標の実績値（31年3月31日時点）	平成30年度 0人/年（累計40人）		
	成果指標の達成状況	△	（左の理由）	農業振興の取組は実施しているが農業従事者の増加するまでには時間を要すると考えられる。			
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）	-		（時期）	-
成果指標③	成果指標の目標数値	職人養成プログラム修了者のうち町内事業所への就職人数（織物） H29：0人⇒H32：10人		成果指標の実績値（31年3月31日時点）	平成30年度 14人/年		
	成果指標の達成状況	◎	（左の理由）	職人養成プログラム修了者の約8割が町内事務所に就職しており一定の成果が出ていると思われる。			
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）	-		（時期）	-
成果指標④	成果指標の目標数値	販路開拓成約件数 H29：0件⇒H32：15件		成果指標の実績値（31年3月31日時点）	平成30年度 0件/年		
	成果指標の達成状況	△	（左の理由）	平成30年度は件数に結びつかなかったが、地域資源を活かした新たな事業展開において町内事業者の農工商連携による販路開拓の取組を推進するため、引き続き新商品・新技術開発の支援や商談会等を実施し農業振興及び産業振興の活性化に繋げていきたい。			
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）	-		（時期）	-
成果指標⑤	成果指標の目標数値	起業件数・創業件数 H29：0件⇒H32：15件		成果指標の実績値（〇年〇月〇日時点）	H30年度 5件/年		
	成果指標の達成状況	◎	（左の理由）	一定の成果が出ており、今後も企業・創業支援に取り組みたい。			
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）	-		（時期）	-

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成30年度分）

団体名：与謝野町

<p>本年度の事業実績が 成果指標の達成に与え た効果 ※未達成の場合も効果 を記載すること</p>	<p>産業分野においては、地方創生関連の交付金を活用し「農業振興施策」、「織物振興施策」を進め、町の基幹産業である農業、織物業、また新たな産業の振興を進めることができ、次年度以降の本格的な取り組みに期待が高まった。 農業分野においては、自然循環型農業などの積極的な取組による与謝野町ブランド（「京の豆っこ米」）の知名度の上昇などにより、農業従事者のやりがいに繋がっている。今後、農業従事者の増加に繋がることが期待する。</p> <p>※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方針についても記載すること。</p>	
<p>本プロジェクトに 対する自己評価</p>	<p>関連事業との連携効果</p>	<p>交付対象事業で産業基盤整備を行い、関連事業では地方創生推進交付金を活用し先進的な取り組みを行ったことにより連携効果が生まれた。</p>
	<p>府と市町村等との連携に資する成果</p>	<p>織物振興関連で丹後ちりめん創業300年事業とも連携して活性化を図ることができた。</p>
	<p>住民の自治意識を高める成果</p>	<p>産業分野は住民生活にも大きく関わる分野であるため、住民自ら積極的に取り組む事業も多く意識は高い。そういった事業に対して町が様々な支援を行い、住民の取組を活性化している。</p>
	<p>リーディング・モデル成果</p>	<p>新たな無農薬栽培農法の研究等、特に農林業分野での新しい取り組みを行い、今ある問題の解決を積極的に行っている。また、シルクプロジェクト、ホップ栽培等新たな産業の創出も図ろうとしている。</p>
	<p>広域的波及成果</p>	
	<p>行財政改革に資する成果</p>	<p>産業施設・農業施設の改修整備などにより施設の長寿命化を図っている。</p>
	<p>その他の成果</p>	

（記載要領）

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは―を記載すること。